

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 076	提案機関名 横浜市漁業協同組合
要望問題名 東京湾に発生する貧酸素水塊の水産資源への影響評価及び発生メカニズムとその予測手法の開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 横浜市漁協のみならず、東京内湾で漁を行う漁業者は夏季の貧酸素水塊の発生によって漁模様に大きな影響を受けている。貧酸素水塊はシャコやマコガレイ、マアナゴ等の漁業資源変動にも大きな影響を与えると聞いている。現在、漁業者サイドでは、水技センターの発行する貧酸素水塊の発生情報を参考に、それに応じた操業方法を工夫する努力をしているところである。 しかし、将来にわたって東京内湾で漁業を営むために、貧酸素による資源への影響評価手法の開発や貧酸素水塊の発生メカニズムの解明、さらに発生の予測手法の開発を要望するところである。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 水産技術センター	担当部所 企画資源部 (海洋資源担当)
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 漁業環境試験研究、複合的資源管理型漁業推進対策事業、東京湾貧酸素水塊対策研究	
対応の内容等 当センターでは従来から5～11月に貧酸素調査を行い、「東京湾溶存酸素情報」を発行し貧酸素水塊の分布について情報提供を行っております。 貧酸素水塊のメカニズムについては、これまでの研究で沖合系水の流入や風等の影響により分布域が移動することが分かっておりますが、引き続き調査を行ってまいります。 貧酸素水塊の発生予測手法の確立については、既に予測システムを開発している千葉県と共同して、本県側も含めた東京湾全体の貧酸素水塊の予測手法を確立させ、東京内湾で操業する漁業者の適正な操業に寄与できるよう研究を進めてまいります。 また、水産資源に対しては、標本船調査や底生生物調査、シャコ資源調査を通じて貧酸素水塊が及ぼす影響について検討して行きます。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	